

# 社会資本総合整備計画

けんとう 県都にふさわしい ちゆうしんしがいち 中心市街地の みりょくしんてん 魅力が伸展するまちづくり

平成30年 3月

おおいたけんおおいたし  
大分県大分市

社会資本総合整備計画

平成30年 3月15日

計画の名称										県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり				重点計画の該当			
計画の期間										平成26年度～平成32年度(7年間)		交付対象		大分県 大分市			
計画の目標																	
<p>■大目標 官民連携により大分市中心部の地域資源の活用を行い地域の稼ぐ力の向上を目指す</p> <p>□目標 1 1300年間の県都を体現する石仏や神社仏閣、国指定史跡大友氏遺跡などの歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する</p> <p>□目標 2 歴史文化資源を核とした歴史・文化施設の回遊ネットワークづくりを行う</p> <p>□目標 3 中心市街地において回遊性の向上や賑わいの創出を図り地域経済の向上を図る</p>																	
計画の成果目標(定量的指標)																	
<p>【空き店舗率】 中心市街地における「空き店舗率」を11.1%(H28)から6.8%(H32)に向上</p> <p>【歩行者通行量】 中心市街地における「歩行者通行量(土、日曜日:35地点)」を343,653人(H28)から352,150人(H32)に向上</p> <p>【小売業の年間商品販売額】 大分市全域における「小売業の年間商品販売額」を4,863億円(H26)から5,000億円(H32)に向上</p>																	
定量的指標の定義及び算定式										定量的指標の現況値及び目標値			備考				
										当初現況値 (H29)	中間目標値	最終目標値 (H32)					
【空き店舗率】 3ヶ月毎に調査している「大分市空き店舗調査」に基づく空き店舗率										11.1%	-	6.8%	※中間目標は任意				
【歩行者通行量】 毎年実施している「大分市中心部における通行量調査」の土、日曜日の3.5地点の合計通行量										343,653人	-	352,150人					
【小売業の年間商品販売額】 経済センサス活動調査に基づいた小売業の年間商品販売額										4,863億円	-	5,000億円					
全体事業費		合計 (A+B+C+D)		2,269.7百万円	A	2,269.7百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C+D)		0.0%		
交付対象事業																	
A1 基幹事業(市街地整備)																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)						全体事業費 (百万円)	備考	
									H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32		
A-1	都市再生	一般	大分市	直接	大分市	大分市中心市街地地区 都市再生整備事業	高質空間形成施設 他 153ha	大分市								1,525.2	
A-2	都市再生	一般	大分市	直接	大分市	大友氏遺跡歴史公園周辺地区 都市再生整備事業	地域生活基盤施設 他 239.5ha	大分市								744.5	
										合計						2,269.7	
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)						全体事業費 (百万円)	備考	
									H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32		
										合計						0.0	
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)						全体事業費 (百万円)	備考	
									H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32		
										合計						0.0	
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	
D 社会資本整備円滑化地積整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)						全体事業費 (百万円)	備考	
									0	0	0	0	0	0	0		
										合計						0.0	
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	

交付金の執行状況

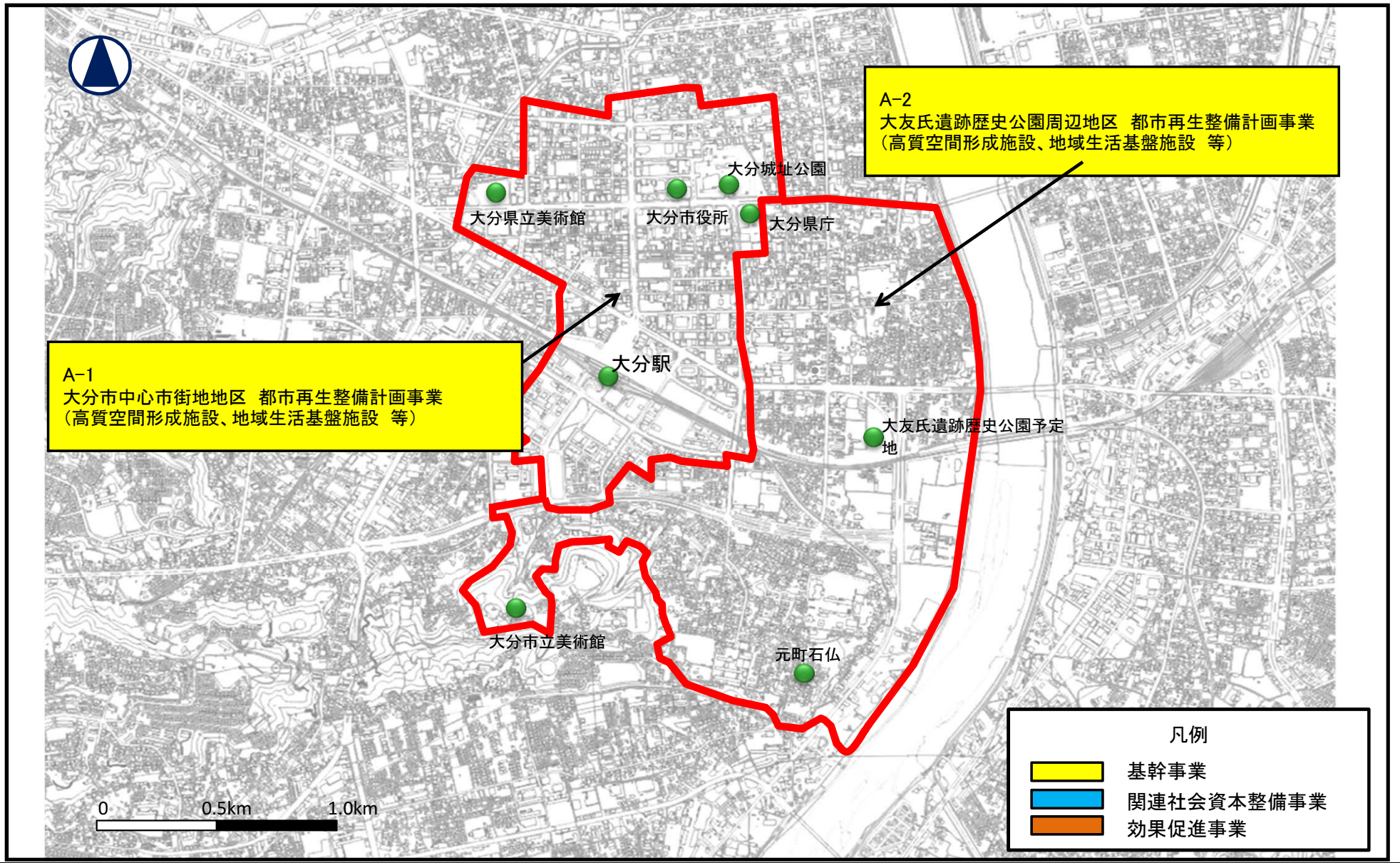
(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
配分額 (a)	134	42	164	66	328		
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0	0			
交付額 (c=a+b)	134	42	164	66			
前年度からの繰越額 (d)	0	53	0	93			
支払済額 (e)	81	95	71	112			
翌年度繰越額 (f)	53	0	93	47			
うち未契約繰越額 (g)	32	0	67	16			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0			
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	23.9%	0.0%	40.9%	10.1%			
未契約繰越＋不用率が10%を超えている場合その理由	通行規制に伴う地元関係者との調整に不測日数を要したため	—	通行規制に伴う地元関係者との調整に不測日数を要したため	計画の協議・調整に不測の日数を要したため			

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

(参考図面)

計画の名称	県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり		
計画の期間	平成26年度 ~ 平成32年度 (7年間)	交付対象	大分県 大分市



# 都市再生整備計画(第5回変更)

おおいたしちゅうしんしがいちちく  
大分市中心市街地地区

おおいた 大分県 おおいたし 大分市

平成30年 3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	大分市中心市街地地区	面積	153 ha
計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 31 年度	交付期間	平成 26 年度 ~ 平成 31 年度				

### 目標

■大目標 中心市街地における都市機能の利活用の促進(都市機能の利活用による親しみづくり、親しみや調和の醸成)

□目標 1 中心市街地の南北一体化による都市機能の利活用と賑わい促進

□目標 2 人にやさしい魅力ある都市空間の育み

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

当地区は、大分駅を中心とした153haの区域です。

駅北地区は戦災復興の土地区画整理事業が行われ、大分県庁や大分市役所等の行政施設が立地し、複数の商店街や大規模商業施設などの商業業務機能が集積しています。

駅南地区は大分駅周辺総合整備事業により新しいまちづくりが進んでいます。

当地区のまちづくりは、「大分市総合計画」や「大分市都市計画マスタープラン」等の上位計画に基づき、大分駅付近連続立体交差事業や大分駅南土地区画整理事業、地域高規格道路庄の原佐野線等の関連事業の竣工と共に、情報文化都心の核施設であるホルトホール大分が完成し、JR大分駅ビルの建設や新たな県下の芸術文化創造の拠点となる大分県立美術館の完成が控えています。(H27年度時点で完成)

大分駅周辺地区においては、平成17年度から25年度にかけて社会資本総合整備計画を施行し、中心市街地における都市機能の充実及び魅力づくりの目標達成に向け、事業を遂行しています。

また、平成20年には大分市中心市街地活性化基本計画を策定しています。本計画は、「あなたのライフスタイルを彩るまちへ」を基本コンセプトにした、商業再生を軸とする中心市街地の活性化策として取り組んでいます。

当地区は、第二期計画の実施により、「中心市街地における都市機能の充実及び魅力づくり」の目標達成に向け、事業を推進しており、地区内居住人口や生活利便施設が増加し、まちづくりイベント等も活発に開催しています。

しかし、賑わいの創出や魅力ある都市空間の整備を担う複合施設の利活用や大分駅を中心とした様々な交通手段による結節機能の整備の等、完成の時期については、本計画期間の後期に集中していることなどから、本格的な可動による成果の発現について、充分発揮するまでには至らない状況が見受けられます。また、従来県都大分の中心であった駅北既成市街地(特に駅北東街区)において、空き地等の低未利用の空間が発生することでやや活性が失われていく傾向がみられ、H23年度から増加傾向にあった歩行者通行量についても、H28年度に鈍化している状況が見受けられます。

今後は、各施設整備の利活用を踏まえ、引き続き更なる南北一体化による都市機能の充実及び賑わいの創出、魅力ある都市空間の整備に取り組みます。

#### 課題

- ・大分駅付近連続立体交差事業や大分駅南土地区画整理事業に関連する街路整備が整うことにより、生活の質及び安全・安心など多様な市民ニーズの向上に伴う居住人口の増加や大分駅へのアクセスが強化されている。
- ・情報文化新都心の核となる複合文化交流施設が整備され、交流と賑わいの拠点となっている。
- ・大分いこいの道と中央通りの連携強化による南北市街地の形成促進が求められる。
- ・大分駅を中心とした様々な交通手段による結節機能の充実が図られている。
- ・都市機能や施設の充実に伴い、中心市街地の魅力回復やさらなる賑わい創出が求められる。
- ・来街者に対する適切な案内と情報提供の充実が求められる。
- ・大分駅周辺の区画整理事業や民間開発の進展により生活の質や安全性の向上に資する居住環境の整備が図られている。
- ・大分駅北側における低未利用の空間の発生により「都市のスポンジ化」が懸念されることであり、これらの空間の高度利用を推進することで本来の駅北・商業業務都心の魅力をより高め、回遊性・滞留性を確保する必要がある。

#### 将来ビジョン(中長期)

大分市総合計画では、県都・中核市にふさわしい都市構造の構築に向け、総合的かつ計画的な都市の骨格形成を推進し、人にやさしく美しい都市空間の創造と整備を推進することとしている。また、全ての市民が利用できる複合文化交流施設による賑わいを創出するとともに、多様な都市機能を集積した、多くの人にとって暮らしやすい環境の整備を勧めるなど、大分駅南北における中心市街地の活性化を図り、風格と賑わいのある都市拠点の形成を目指す。

大分市都市計画マスタープランでは、JR大分駅を中心とした南北市街地の一体化を図ると共に、既成市街地であり歴史的・文化的中枢を担ってきた駅北地区と新しい都心の形成が進む駅南地区の役割分担と相互連携による、新しい都心の形成を図る。

大分駅南北軸を連結する都心南北軸の形成として、鉄道の高架化による南北市街地の分断を解消し、本市の玄関口であり、また交通結節拠点であるJR大分駅を中心に、南北市街地の連携による一体化を促進し、中心市街地のシンボルとなる都心南北軸の形成を図る。

また、個性ある文化を創造する拠点の形成として、歴史的資源が多く残るとともに、中心市街地におけるシンボリックな緑である大分城趾公園や都心の森など、多様な地域資源が豊富な地区の特性を活かし、市民や来街者が憩い・ふれあえる拠点の形成を図る。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者通行量	人	毎年実施している「大分市中心部における通行量調査」の土、日曜日の35地点の合計通行量	目標1の指標として用いる。市街地の南北一体化や賑わいを創出する拠点施設の整備により、年々減少傾向にある地区内の歩行者通行量を平成16年の水準まで回復させることを目標とする。	288,290人	平成25年	352,100人 (最終目標352,150人)	平成31年 (平成32年)
まちなか滞留時間	%	毎年実施している「大分市中心部における通行量調査」によるまちなか滞留時間3時間以上の割合	目標2の指標として用いる。歩行者や自転車に配慮した空間を整備するとともに賑わいを創出する拠点施設の整備を行い、年々減少傾向にあるまちなか滞留時間を平成12年の水準まで回復することを目標とする。	29.7%	平成25年	40.2%	平成31年
中心市街地の空き店舗率	%	中心市街地における5商店街振興組合の区域内にある建物1階部分の比較	中心市街地が持つ産業、人的資源を活かし、既存商店街の活性化、個店の魅力向上を図り、まちなか商業の活性化を目指す。	11.1%	平成28年	7.9% (最終目標6.8%)	平成31年 (平成32年)
小売業の年間商品販売額	億円	商業統計で公表されている立地環境特性別統計編に基づく年間商品販売額の比較	イベント活動などによる賑わいの創出、既存店における経営改善、サービスの向上により商店街の活性化を目指す。	4,863億円	平成26年	5,000億円	平成31年

都市再生整備計画の整備方針等

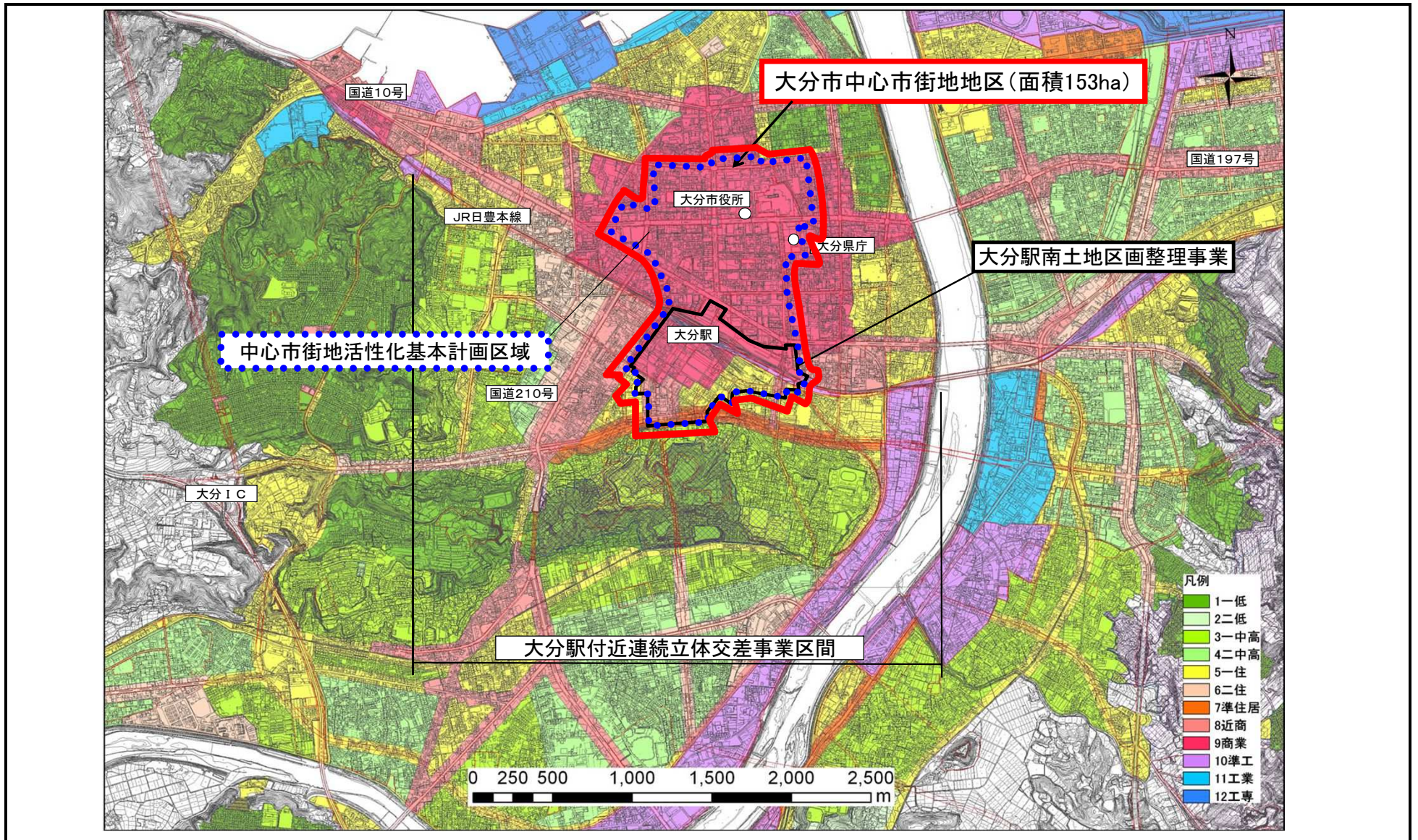
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1（目標1: 中心市街地の南北一体化による都市機能の利活用と賑わい促進）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中心部へのアクセス強化及び様々な交通手段による結節機能の利活用を図る</li> <li>○にぎわい創出に向けた施設整備と施策による賑わい促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大分駅北口観光案内サイン設置</li> <li>■大分駅北口駅前広場情報案内板設置</li> <li>■中央住吉1号線修景</li> <li>■中央住吉2号線修景</li> <li>■中央町南春日線シェルター設置</li> <li>■大分城址公園修景</li> <li>■祝祭広場整備</li> <li>□祝祭広場イベント</li> <li>□まちなかにぎわい創出事業</li> <li>□環境にやさしい自転車のまちづくり啓発事業</li> <li>□中心市街地プロモーション事業</li> <li>□府内城宗門櫓復元公開活用事業</li> </ul>
<p>整備方針2（目標2: 人にやさしい魅力ある都市空間の育み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源の有効活用に向けた適切な案内と情報提供により中心部の回遊性を育む</li> <li>○憩いの空間や多様なライフスタイルに対応した施設整備による地域の魅力を育む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大分駅北口観光案内サイン設置</li> <li>■大分駅北口駅前広場情報案内板設置</li> <li>■祝祭広場整備</li> <li>■大友氏遺跡誘導施設設置</li> <li>□祝祭広場イベント</li> <li>□まちなか出店サポート事業</li> <li>□通行量調査</li> <li>□大分都心南北軸トータルデザイン設計業務委託</li> <li>□事後評価調査</li> <li>□中心市街地循環バス運行事業</li> </ul>
<p><b>事業実施における特記事項</b></p>	
<p>本計画を進めるにあたり、計画対象地に残る多様な歴史・文化資源、祭礼を元に大友氏遺跡歴史公園を重点地区とした「歴史的風致維持向上計画」の策定を検討しています。</p> <p>【官民連携体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○都市空間活用事業計画（歩行者天国）：商店街振興組合や商工会議所、大分都心まちづくり委員会、県内他市町村などとの連携により、中心市街地に位置する中央通りにて歩行者天国を実施</li> <li>○まちなか出店サポートセンター運営：まちづくり会社である（株）大分まちなか倶楽部と連携し、起業家や相談者に対して出店サポート等を実施</li> <li>○まちなかりノベーション居住等物件魅力アップ：前述したまちづくり会社を実施主体として、老朽化した物件のリノベーションとまちなか店舗等の物件の魅力アップを推進</li> </ul> <p>【政策間連携体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大分市中心市街地の都市機能の増進や経済活力の向上、賑わいの創出などを総合的に推進するために、国土交通省や経済産業省、大分県、本市など多様な主体から構成された「中心市街地活性化協議会」を通じて、庁内外において、第33回国民文化祭や第18回全国障害者芸術文化祭開催事業、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック推進事業などと横断的に連携を図る</li> </ul> <p>【事業完了後の継続性、人材育成、維持管理費の低減】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大分城址公園などの歴史・文化観光拠点や祝祭広場を中心として、官民連携により民間事業者の経験やノウハウに基づいた、イルミネーションやガイドツアー、生活文化展などの定期的な賑わいイベント開催により、市民を含めた来街者の回遊性や滞留性の確保を図る。また、消費や飲食購買の意欲を活性化させるとともに空き店舗や空き家の解消に努めることなどにより、中心市街地の活性化を図り、持続可能なまちづくりに取り組む</li> <li>○（株）大分まちなか倶楽部などでまちづくりに携わる「ひと」と連携し、まちづくりの担い手を育成することや、個店をはじめとする事業者の人材育成支援や店舗の開業支援を行うことにより、幅広い世代で賑わう持続可能なまちづくりを目指し、魅力あるまちなか商業拠点の形成を図る</li> <li>○整備した公共空間における公物管理の権限を民間に付与することで、維持管理費の低減を図ることを検討する</li> </ul>	





都市再生整備計画の区域

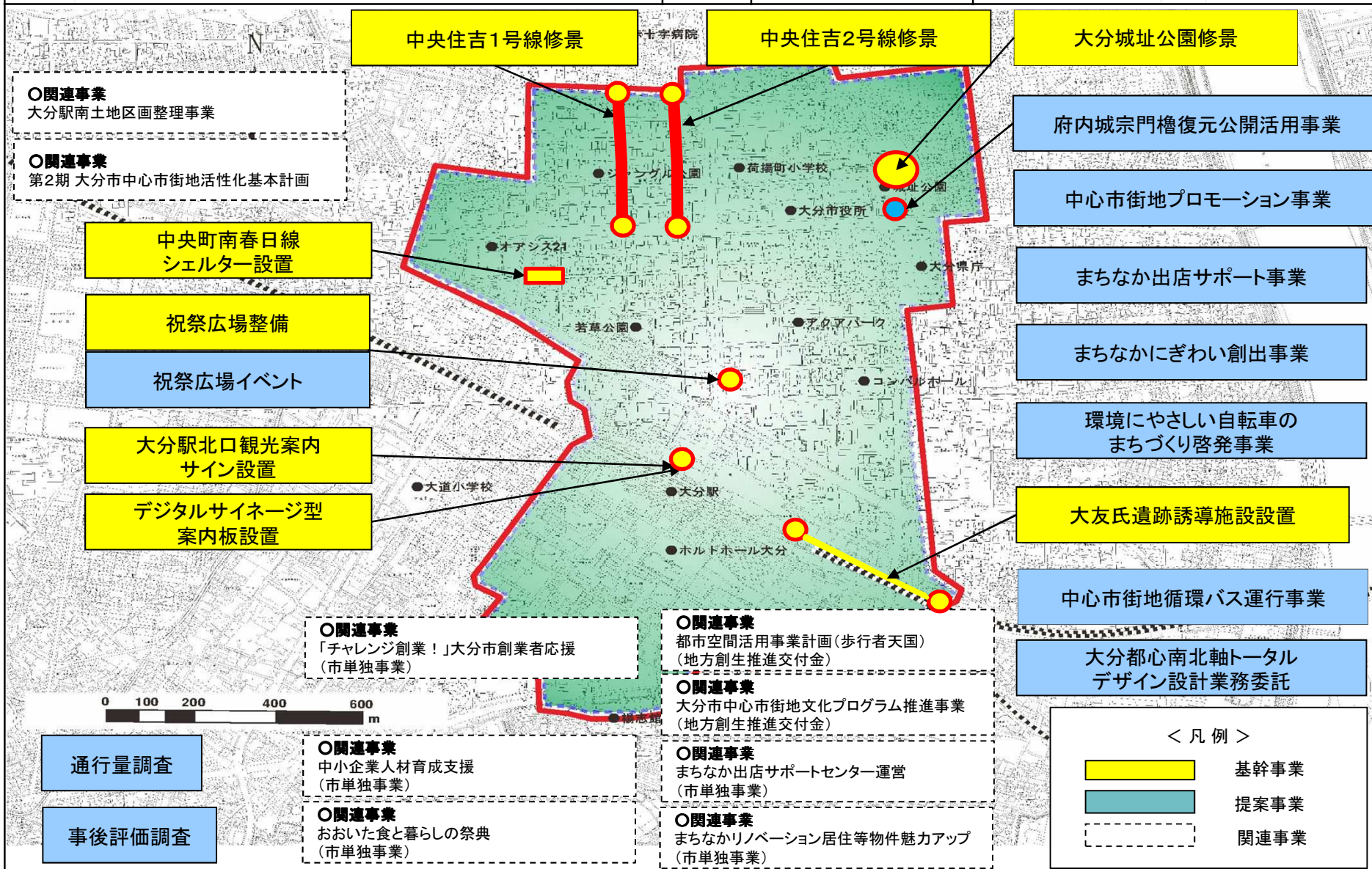
<p>大分市中心市街地地区(大分県大分市)</p>	<p>面積 153 ha</p>	<p>区域 中央町1~4丁目、府内町1~3丁目、大手町1~3丁目、金池町1~5丁目、末広町1~2丁目、高砂町、都町1~4丁目、大道町1~4丁目、額徳町1~3丁目、東大道1~2丁目、金池南1~2丁目の全部及び上野町、桜ヶ丘、荷揚町、六坊北町、寿町、大道5丁目、上野町、東大道3丁目の一部</p>
---------------------------	------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------





# 大分市中心市街地地区(大分県大分市) 整備方針概要図

目標	大目標 中心市街地における都市機能の利活用の促進 目標1 中心市街地の南北一体化による都市機能の利活用と賑わい促進 目標2 人にやさしい魅力ある都市空間の整備	代表的な指標	歩行者通行量(人) まちなか滞留時間(%)	288,290(25年度) 29.7(25年度)	→	352,100(31年度) 40.2(31年度)
----	---------------------------------------------------------------------------------------	--------	--------------------------	-----------------------------	---	-----------------------------



# 社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称:大分市中心市街地地区都市再生整備計画事業

事業主体名:大分市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
<b>①都市再生基本方針との適合等</b>	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
<b>②地域の課題への対応</b>	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
<b>II. 計画の効果・効率性</b>	
<b>③目標と事業内容の整合性等</b>	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
<b>④事業の効果</b>	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
<b>III. 計画の実現可能性</b>	
<b>⑤地元の熱意</b>	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
<b>⑥円滑な事業執行の環境</b>	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○